

草の実分校 地域支援通信 きらり

かがやき特別支援学校草の実分校支援部では、肢体不自由児教育に関する情報を発信しています。その情報発信の1つである地域支援通信『きらり』ですが、今回のきほんの『き』は、よだれについての質問です。子ども心身発達医療センター地域支援課の言語聴覚士(ST)のご協力をいただいて掲載しています。ぜひご一読ください。

きほんの『き』～よだれ編～



A先生

今年度から肢体不自由児学級を担当しています。担当している児童ですが、よだれが止まらないのですが、何かできることがあれば教えていただけませんか。



支援部教員

今回の質問は、食べる機能、気持ちを伝える手段や発音についての専門家である言語療法士(ST)にアドバイスをいただきました。



言語聴覚士
(ST)

私たちは無意識のうちに唾を飲み込んでいます。何らかの原因で飲み込むことが出来なくなると、口からあふれ出てよだれになります。何が原因になっているのか考えてみましょう。例えば・・・

口の機能の発達が未熟？

唾を送り込む舌の動きが上手くできない？

嚥下(ごっくんと飲み込むこと)がしにくい？

お子さんの様子を観察してみましょう。



そうなのですね！原因っていろいろあるのですね。



よだれを軽減させる取り組みとしては、飲み込みの練習が効果的な場合があります。唇・舌・下アゴを動かして、食べ物を食べる(飲み込む)ことで、『飲み込む』ことを意識できる関りができると良いでしょう。

嚙んで食べる事が出来るお子さんであれば「かみかみしようね」「たくさん嚙んでね」等声かけをして、いつもよりアゴを動かすことを意識させる機会を作ってもらうのも1つの練習になります。嚙む事で唾が増えるので、食べ物と一緒にしっかり飲み込みましょう。



なるほど！声掛けなら私もできます。明日から、早速やってみますね。



また、普段からよだれが多いお子さんの場合、口周りが常に濡れているかもしれませんが。タオル等で拭いてきれいな状態(濡れていない状態)にすることも大切です。濡れている時、濡れていない時の違いを大人が声かけしてみましょう。そして、お子さんが気付けるようになると自分で拭くことにつながるかもしれません。よだれが減らない場合でも、自分で拭けるようになると良いですね。

また、口内炎や咽頭炎など、口の中の炎症で唾液が急に増えることもありますので、その時は歯科や口腔外科の受診を勧めてください。